

平成 31 年度大学院教育学院博士後期課程入学試験問題
外国語（日本語） 教育心理学講座

（100点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。

問題1 以下の a)、 b) の問題に答えなさい

a) 下記の文章を読んで、2つの経路それぞれにおける解剖学的・機能的特徴を簡潔に述べなさい。

出典：河内十郎（監訳），現代基礎心理学選書 第 7 卷 視覚の神経心理学における症例研究，共同出版，2017，pp. 40-41.

b) 下の図は、Navon D. の論文（Forest before trees: The precedence of global features in visual perception. *Cognitive Psychology*, 1977, 9, 353-383.）の結果の一部である。図が示す結果のパターンを説明しなさい。

出典：齊藤勇監修・行場次郎編，認知心理学重要研究集 1 視覚認知，誠心書房，1995，pp. 10-12.

問題2 次頁以降の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

荻上(2018)は、「単に教員が介入しやすくするだけでも、いじめの解決につながるのではないかという仮説が立ちます。少人数学級にすればただちにいじめが減るわけではありませんが、教員が介入しやすい空間をつくることがいじめ対策につながる可能性はあるのです」(p.260)と述べている。

しかし、荻上によれば、現在の日本の学校教員はいじめに介入するのが困難な状況におかれている。

資料(図5④, 図7①・②, 図8)を用い、「日本の学校教員の忙しさ」をキーワードとして、いじめへの介入が困難な背景を日本語で説明しなさい(字数制限なし)。

[出典 荻上チキ(2018). いじめのしくみってどうなっているの? 綾屋紗月(編著) ソーシャル・マジョリティ研究: コミュニケーション学の共同創造 金子書房 pp.243-283. そのうち, pp.257-263より文章と図を引用。]

図5：教員と学級運営

図7：教員の労働時間

ベネッセ教育総合研究所「第5回学習指導基本調査（小学校・中学校版）」（2010年実施）

図8：教員の仕事時間の国際的比較
「国際教員指導環境調査」(TALIS) 2013より作成